

令和7年8月26日
防災くらし安心部

高温・少雨による現在の状況について

1 気象概況

	6月		7月		8月（上旬～中旬）	
	平均気温 (平年差) °C	降水量 mm (平年比)	平均気温 (平年差) °C	降水量 mm (平年比)	平均気温 (平年差) °C	降水量 mm (平年比)
山形	23.1 (+2.8) かなり高い	64.0 (61%) 少ない	28.2 (+4.3) かなり高い	8.0 (4%) かなり少ない	27.0 (+1.5)	156.5 (172.4%)
酒田	22.1 (+2.1) かなり高い	97.0 (77%) 平年並	27.7 (+3.9) かなり高い	3.0 (1%) かなり少ない	27.1 (+1.2)	188.0 (158.1%)
新庄	21.8 (+2.5) かなり高い	76.0 (60%) 少ない	26.7 (+3.7) かなり高い	8.0 (4%) かなり少ない	26.1 (+1.5)	124.0 (105.1%)
米沢	22.2 (+2.4) かなり高い	96.0 (84%) 平年並	27.2 (+3.8) かなり高い	24.0 (13%) かなり少ない	25.7 (+0.8)	117.0 (133.6%)

2 ダム等の貯水状況

少雨により貯水率が低下し、県管理ダムは11か所中7か所、農業用ダム・ため池11か所中9か所が平年を下回っているものの、8月5日以降のまとまった降雨により、貯水状況は改善がみられる。村山地域の一部県管理ダム（留山川ダム・前川ダム・白水川ダム）については、降雨がわずかであったことから、引き続き注意が必要な状況となっているが、今のところ水利上の問題はないものとみている。

3 主な影響

(1) 水道

- ・給水制限：小国町 7月9日～8月8日
大蔵村（肘折地区） 8月21日～（週3日）
- ・節水の呼び掛け：酒田市（市内全域） 7月27日～8月8日
鶴岡市（大平地区） 7月29日～8月15日
新庄市（市内全域） 8月1日～
真室川町（安楽城地区） 7月24日～8月25日
鮭川村（木の根坂地区） 7月9日～
- ・企業局の水道用水供給については、これまでのところ用水供給への影響はなし。

(2) 工業用水

最上川の塩水遡上に伴い、酒田工業用水道の受水企業24社のうち4社の操業に影響が生じていたが、8月11日までにすべての受水企業が通常の操業を再開。

(3) 農林水産業

- ・水稻：一部で渴水による枯れ上がりが発生
 - ・果樹：果実肥大の停滞、着色不良
 - ・野菜：一部で生育の停滞やしおれ、枯れ上がりが発生
- 8月4日より、農業用水の確保や園芸作物の高温対策に対して緊急支援を実施。

(4) 観光業

水位の低下により、最上川の舟下りなどが運航中止やコース変更となつた。その後、一時通常運航を再開したものの、8月20日以降、再び渴水の影響により、運航中止やコース変更を余儀なくされている。

以上

高温・少雨による農作物等への影響と対応について

1 農作物の生育概況等

(1) 水 稲

- 出穂の盛期（作付面積の50%）は、平年より3日早い8月1日となった。7月中に出穂した圃場については、出穂期以降に平年より高い気温に遭遇したことから、胴割粒及び白未熟粒の発生が懸念される。
- 本年は、これまでの高温の影響で刈取適期が平年より1週間程度早まる見込みであり、刈り遅れた場合は胴割粒の発生が助長される。
- 7月の少雨の影響で稻株が枯れ上がった圃場では、減収するとみられる。



(2) 大 豆

- 開花期は平年より2日程度早まっており、現在は子実肥大期となっている。
- 7月の少雨の影響で、葉の萎れが見られた圃場では、花や莢の落下による収量の低下が懸念される。

(3) 果 樹

- 果樹全般では、7月の少雨の影響で果実肥大の停滞が全域でみられており、収量の低下が懸念される（8月14日現在の園芸農業研究所における果実ヨコ径：りんご「ふじ」平年比95%、西洋なし「ラ・フランス」平年比97%、もも「川中島白桃」平年比92%）。
- ぶどう「デラウェア」の収穫盛期は、前年より7日程度遅い8月2日頃から8月11日頃となった。高温少雨の影響で、果粒の肥大不足に加え、着色不良や日焼け果の発生が見られ、出荷量は前年を下回っている。
- もも「あかつき」の収穫盛期は、前年より7日程度遅い8月8日頃から8月16日頃となった。7月の高温少雨による着色不良、肥大不足に加え、収穫期間中の降雨で軟果が多く発生し、出荷量は前年を下回った。主力の「川中島白桃」は、高温の影響で、着色遅延がみられ、果実肥大は8月の降雨で回復傾向であるが、平年に比べやや小玉傾向である。出荷は、8月21日頃から始まり、8月25日頃から本格化する見込み。
- さくらんぼでは、少雨の影響で、葉の黄変落葉が散見されており、樹勢の衰弱や花芽の充実不良に加え、翌年の双子果の増加が懸念される。

(4) 野 菜

- すいかの収穫盛期は、例年よりやや早い7月18日頃から8月4日頃となり、現在収穫終盤となっている。高温少雨の影響でうるみ果や過熟果が散見される。灌水できなかった圃場では茎葉の萎れが増加し、枯れ上がりが散見される。
- えだまめの収穫は、例年よりやや早く、庄内地域の「茶毛系品種」が7月21日頃から、内陸地域の「白毛系品種」が7月16日頃から始まった。中生、晩生品種では、少雨の影響で生育量の不足、落花や着莢のバラツキが散見されており、灌水できなかった圃場では減収が見られている。
- アスパラガスやにら等の露地品目では、高温少雨の影響で生育が停滞しており、出荷量が少ない。また、トマトやきゅうり等の施設品目では、草勢低下や障害果の発生等が散見される。

(5) 畜 産

- 家畜の死亡は、8月15日時点で、採卵鶏、ブロイラーで例年より多くなっている。
- 牧草等については、降雨により一部地域で回復傾向にあるが、生育停滞や夏枯れがみられる。
- 一部の放牧場で、牧草の夏枯れ等により途中下牧（放牧を取り止め畜舎に戻す）を実施している。

【家畜の死亡頭（羽）数】(6/1～8/15)

乳用牛20戸23頭、肉用牛7戸7頭、豚10戸52頭、採卵鶏9戸4,774羽、ブロイラー5戸1,693羽

2 水産業の状況

- 内水面では、河川の流量が減少し、餌となる藻類が少なくなり、鮎の生育が劣り小型化していたが、流量が回復したことにより生育が進んでいる。
- 一部養鱒業者において、飼育水温が上昇し、イワナのへい死が見られている。

3 農業用水の状況

(1) 農業用ダム・ため池の貯水状況

- 貯水量の平年比は、8月22日時点で25～217%となっている。
- 6月下旬以降の少雨の影響により貯水量の低下が進んだが、8月5日から県内全域でまとまった降雨が観測され、貯水量は回復傾向にあるものの、用水の需要が多く、平年比、前年比をともに下回っている。

農業用ダム・ため池の貯水状況調査（8月22日）(千m³)

	管内	市町村	施設名	管理者	有効貯水量	貯水量	貯水率		
							平年比	前年比	
農業用ダム	置賜	米沢市	みずくば 水窪ダム	県農林水産部	31,000	7,764	61%	67%	25%
	置賜	飯豊町	しらかわ 白川ダム	国交省	※ ¹ 10,651	10,651	-	-	100%
	村山	尾花沢市	しんづるこ 新鶴子ダム	県農林水産部	29,800	8,711	56%	54%	29%
	村山	上山市	なまいかわ 生居川ダム	上山市土改区	2,470	823	69%	59%	33%
	村山	東根市	じろみずがわ 白水川ダム	県農林水産部	2,600	1,266	59%	50%	49%
	最上	金山町	まさざわ 榎沢ダム	県農林水産部	6,751	1,161	46%	37%	17%
農業用ため池	置賜	米沢市	すぎさわ 杉沢	米沢市	460	144	57%	49%	31%
	置賜	高畠町	ひるさわ 蛭沢	米沢平野土改区	2,075	376	217%	167%	18%
	村山	河北町	ひきりゅうだいに 引竜第二	寒河江川土改区	332	169	64%	51%	51%
	村山	朝日町	うまがみ 馬神	朝日町土改区	1,244	1,244	102%	100%	100%
	最上	新庄市	こいらがわ 小以良川	泉田川土改区	358	60	25%	30%	17%

※1 洪水調整容量を除いた利水貯水量（参考）

※2 平年比とは過去10年9/1時点の平均貯水量と比較した割合

【参考】河川の流況

- 8月5日からの降雨により、最上川基準観測地点「高屋」では、渴水基準流量(60.0m³/s)を上回っている。
※「高屋」地点（戸沢村）観測流量：128m³/s（8月22日9時時点）

(2) 対応状況

- 市町村、土地改良区等の関係者へ農業用水不足に係る節水対応や適正な水配分などのきめ細かな用水管理を行うよう周知。
- 7月上旬以降、地域によっては、番水や排水路からの反復利用などの臨時的な対応を行ってきたが、降雨による水量の回復により、通常の用水管理の体制に移行している土地改良区等が増えてきている。
- 水稲においては、出穂期から登熟期に移行し、飽水管理や間断かん水による水管理が必要となっているため、引き続き、市町村や土地改良区等に対してきめ細やかな用水管理の徹底を呼び掛けていく。